

◆名古屋学院大学 地域連携の実績

現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)

2007年

文部科学省による大学教育改革の優れた取組(Good Practice)のひとつで、社会的要請の強い政策課題に対応した大学の教育プログラムを支援する取組。名古屋学院大学では「地域創生プログラム」の実践―「もの・まちづくり」をテーマとした地域間交流へ―が採択されました。

地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)

2013年

自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学などを支援する事業がスタート。名古屋学院大学では「地域の質」を高める「地」域連携・「知」識還元型まち育て事業が採択。また2016年度からは「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」にも参画しています。

私立大学研究ブランディング事業

2018年

学長のリーダーシップの下、大学の特色ある研究を基軸として、全学的な取組を行う大学を支援するもので、2016年度からスタート。名古屋学院大学では2018年度「ストック・シェアリングを通じた地域価値の編集による新世代型コミュニティの実現に向けた多層的な研究」が選定されました。

◆私立大学研究ブランディング事業 2019年度トピックス

【イオンリテール株式会社と包括連携協定締結】

2019年11月、イオンリテール株式会社との連携協力に関する協定書調印式をイオンモール熱田にて執り行いました。熱田区最大の商業施設であるイオンモール熱田との関係を強化し、熱田エリアがより暮らしやすい街になるよう、教育・研究・社会貢献の多岐にわたる取組の推進を目的としております。今後は、本事業の実証研究の場として、さらに協力関係を深めていきます。

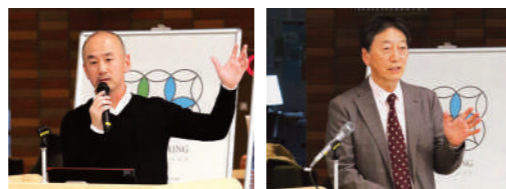


代表者による決意表明

市民が立ち会う公開型の調印式

【キックオフ・シンポジウムを開催】

2019年12月に、「シェアリングが新世代型コミュニティを実現する」というテーマでシンポジウムを開催。第1部は一般社団法人シェアリングエコノミー協会の積田有平氏による基調講演、第2部はパネルディスカッションが行われました。ストック・シェアリングの課題や展望について、行政や企業、市民、NPOといった様々な立場からの意見が出され、本取組の重要性を共有する機会となりました。



基調講演 積田有平氏

井澤知巨教授による事業概要説明

【ダブルケアに関する講座・シンポジウムを開催】

晩産化、少子高齢化が進む中、新たな社会的リスクとして注目されているダブルケア(育児と介護の同時進行)。本研究では、地域に既に存在する様々な資源(ストック)に注目。自助、互助、共助、公助を共に高めていくための取組を展開し、将来世代を見据えたコミュニティのチカラを高めるモデルの構築を目指しています。講座やシンポジウムを開催し、地域の発展に貢献します。



熱田高校演劇部とコラボ「寸劇」

ダブルケア講座を年3回開催



◆シンボルマークが決定!

このシンボルマークに込められた意味についてご説明します。まず6つの○で、本事業が取り組む6つの研究を示しています。さらに、○が重なり合う文様で、大学から地域へ無限につながっていきたくの想いを表現しています。また、マークに使用している3色は、本学が2013年度から展開している大学COC事業のロゴマークと同じ配色にしており、過去の取組を継続・発展させる決意を込めています。

LOOK FORWARD

未来をともに進もう。



STOCK SHARING

地域の価値を編集する大学

ストック・シェアリングとは、蓄積(ストック)された空間や時間、人材を皆で分かち合いながら活用して(シェアリング)、暮らしを良くする活動です。名古屋学院大学は、ストック・シェアリングを通じた地域価値編集の要となっており、新世代型コミュニティの実現に向けた研究をしています。

名古屋学院大学

2018年度文部科学省 私立大学研究ブランディング事業に選定
ストック・シェアリングを通じた地域価値の編集による新世代型コミュニティの実現に向けた多層的な研究



(お問合せ先)
名古屋学院大学 社会連携センター
https://www.ngu.jp/ E-mail: renkei@ngu.ac.jp Tel.052-678-4085
名古屋学院大学 名古屋キャンパスたいほう 名古屋市熱田区大宝二丁目4番45号

ストック・シェアリング研究を通して 名古屋市熱田区を地域モデルに 社会・経済・雇用・文化の発展を目指します。

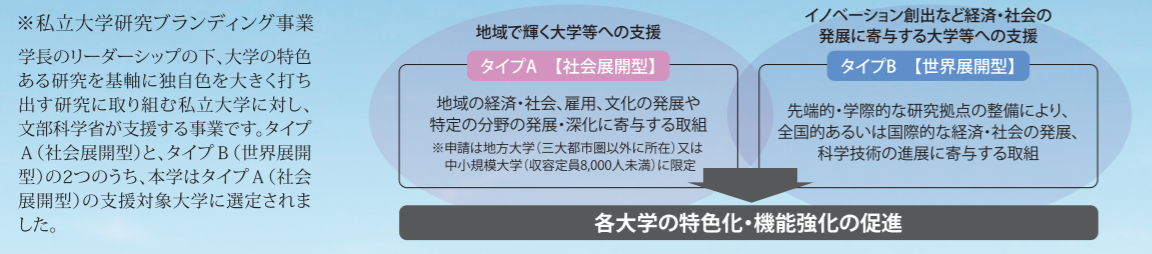
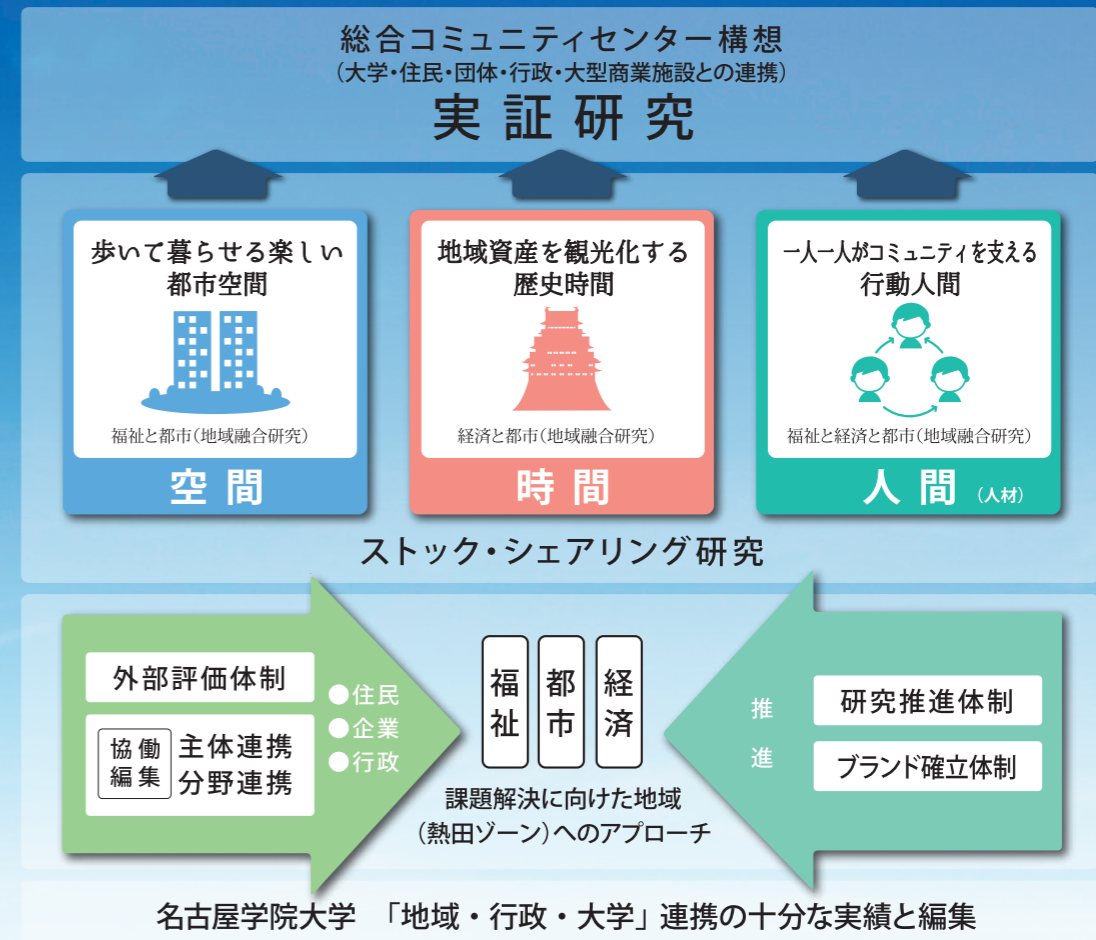
名古屋学院大学が所在する名古屋市熱田区は、熱田神宮をはじめ、歴史的文化遺産や公共施設・空間が豊富な地元愛に溢れた地域です。しかし、世界規模の視点で見ると、魅力発信には多くの課題が残されています。今後、国際競争が激しさを増す中、地域資源の有効活用や地域の魅力向上・発信、新たなサービスやビジネスの創出を図ることが急務となっています。

本学では、2007年に熱田区へキャンパスを回帰

させて以降地域と連携したさまざまなプロジェクトを立ち上げ、2018年度には文部科学省が推進する「私立大学研究ブランディング事業※」に採択されました。公共的、歴史的、人的な資源が豊かな熱田区を研究ゾーンと定め、「ストック・シェアリングを通じた地域価値の編集による新世代型コミュニティの実現に向けた多層的研究」を通じ地域に寄り添った課題解決と地域価値の向上を目指しています。

名古屋学院大学

新世代型コミュニティ形成を目指した地域価値の編集



- 1.事業名 「ストック・シェアリングを通じた地域価値の編集による新世代型コミュニティの実現に向けた多層的研究」
- 2.事業目的
 - ①福祉・都市・経済を地域で融合することで地域課題を解決に導く研究を推進すること。
 - ②地域に蓄積(ストック)された空間・時間・人間等の資源を分かち合い(シェアリング)、新たな地域価値を引き出し、課題を解決しうる地域力を持った新世代型コミュニティ像を明らかにすること。

◆3つの研究分野と6つの研究テーマ

研究分野1

空間

歩いて暮らせる楽しい都市空間
福祉と都市(地域融合研究)

- 1 高齢者が楽しく暮らせる社会システムと都市空間の融合研究
高齢者の健康増進・仲間づくりを後押しし、楽しく歩ける都市空間のあり方を国内外の先進事例を踏まえ、研究フィールドでの展開可能性を研究します。
- 2 多世代が交流できる福祉・商業機能の融合研究
これまで本学は商店街と連携して活性化に大きく寄与してきましたが、さらに、新しい複合商業機能として福祉サービス型の商店街や大型商業施設の条件等を研究します。

研究分野2

時間

地域資産を観光化する歴史時間
経済と都市(地域融合研究)

- 3 あつた宮宿会等との連携による歴史観光推進研究
年間700万人を集客する熱田神宮を筆頭に熱田区には数多くの観光スポットがあります。また老舗企業が集まり、あつた宮宿会として熱田神宮で毎月あつた期日市を開催しています。各種主体との連携を通じて、歴史観光推進の方策を研究します。
- 4 空き家・空き店舗の有効活用研究
古くからの市街地を形成している熱田区では、今後空き家・空き店舗が増加することが予想されるため、シェアリングを通じた有効活用について研究します。

研究分野3

人間

一人一人がコミュニティを支える行動人間
福祉と経済と都市(地域融合研究)

- 5 地域コミュニティのチカラを活性化させるCBPRの展開
名古屋市の中でも、高齢化が進んでいる熱田区で、高齢者の社会貢献できる才能・時間・居場所等を把握し、コミュニティ活性化の役割を研究します。
- 6 公共施設・公共空間の有効活用研究
熱田区には大規模かつ多様な公共施設・公共空間が集積しています。それらを地域コミュニティの課題解決につなげる運用システムを研究します。

実証研究

大学と大型商業施設との連携による総合コミュニティセンター構想

健康増進活動の支援

コミュニティ活動事務局支援

人材育成に向けたカルチャースクールの開催

買い物難民のための巡回バスやマルシェ運営等に関するニーズ調査や開放・連携のための条件整理